

关于「在日中国留学生申请减免打工收入所得税 和申请退还已经交纳的收入所得税」的介绍

全日本中国留学人员友好联谊会

2006年6月

大部分在日中国留学生在在学习之余不得不进行兼职打工，同时也要交付日本的所得税。日本的国民健康保险缴纳的数额是和个人收入挂钩的，所以在日中国留学生打工收入越多，交的税金也越多，同时交纳国民健康保险金的数额也会随之增多。很多留学生为了省钱，就采取不加入日本国内的国民健康保险做法，但是，当在异国他乡患上一些常见病和疑难杂症时，又负担不了日本昂贵的医药费用，甚至对顺利完成学业会产生不小的影响。

广大在日中国留学生遵守日本相关法律、法规、正常打工的情况下（参考附件1），可以免交或少交打工收入所得税，少交或申请减免日本国民健康保险金，享受在日中国留学生应该得到的权益和利益。在日中国留学生为什么能够申请减免打工收入所得税、甚至申请退还已经交纳的收入所得税？申请减免日本国民健康保险金？如何申请？如何办理相关手续？申请退还或减免这些费用有哪些需要注意的事项？全日本中国留学人员友好联谊会经过调查和实际办理相关案例总结介绍如下。

一、在日中国留学生为什么能够申请退还已经交纳的打工收入所得税、申请减免今后的打工收入所得税？

1. 在日中国留学生减免打工收入所得税的相关文件和规定介绍：

中国政府和日本政府签署了《日本と中国の租税条約》（见附件2），根据《日本と中国の租税条約》第21条的规定：（生計、教育、訓練のため受ける給付、所得は免税），在日学习的中国留学生、相关留学人员为了生存，教育等需要所取得的收入，免交所得税。

備考：日中租税条約抜粋

第二十一条 専ら教育若しくは訓練を受けるため又は特別の技術的経験を習得するため一方の締約国内に滞在する学生、事業修習者又は研修員であつて、現に他方の締約国の居住者であるもの又はその滞在前に他方の締約国の居住者であつたものがその生計、教育又は訓練のために受け取る給付又は所得については、当該一方の締約国の租税を免除する。

2. 在日中国留学生申请退还已经交纳的打工收入所得税的依据：

《日本と中国の租税条約》；

可以通过（租税法の所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律の実行に関する省令第15条第一項の第3号の規定）把被征收的所得税退还。

二、在日中国留学生如何申请、办理退还已经缴纳的打工收入所得税？

具体案例

(一) 过去 5 年间缴纳的国税(所得税) 退还办理办法。

1. 在税务署网站[[税務手続の案内](#)]里把关于源泉所得税(租税条約) 関係 (<http://www.nta.go.jp/category/yousiki/gensen/mokuji2.htm>) 表格印刷出来。也可在税务署领取所需要的申请表格(源泉所得税担当);
2. 把过去 5 年间在日留学证明文件(学习证明, 毕业证明, 护照的该当页, 登录证的两面复印, 印章) 备齐;
3. 以上是申请所需的必要手续, 这些手续准备妥当以后, 向个人所在兼职的人事科(或者担当者) 说明解释, 由用人会社代理申请。
 - 注意, 打两份工以上是不能并用的, 比如说, 在 A 店和 B 店打工。必须分别在 A 店和 B 店所在公司申请。但是如果 A 店和 B 店从属于一个公司的话, 是可以一起申请的。反之, 即使店名相同也不能并用。(可以由店代办)。
 - 从申请到退税完了大约 3 个月左右。
 - 税务署不办理个人的退税手续。

(二) 过去 5 年间缴纳的地税(住民税、都民税) 退还办理办法。

1. 准备材料和国税所要准备的材料相同。
2. 到交税当年所居住处所在的区役所(市役所)的区民税(市民税)管理科申请住民税减免。得到办理的申请书在自己退税所在年度居住的市(区)役所办理地方税的减免手续(例如, 住民税)。
 - 注意, 一定要到当时住处所在的区役所(市役所)办理。比如说, 现在搬家到新的住所 A 地, 必须到原来的 B 区(市)役所办理。新的区役所(市役所)不可以兼办。)。
 - 从申请到退税完了大约 2 个月左右, 由个人申请。

三、在日中国留学生如何申请、办理减免交纳国民健康保险金？

国民健康保险费的减免申请办法。在国税和地税的减免申请完了后, 到退税当年所居住处所在的区役所(市役所)的国民健康保险费纳入科办理减免。在那里要申请表格, 填写后提交。

日本政府对在日低收入的外国人提供减免交纳国民健康保险金社会福利措施。作为在日中国留学生基本都属于低收入的外国人这个范围, 因此可以申请减免交纳国民健康保险金。但是日本政府并不是对所有的在日低收入外国人都提供减免, 只是有一定比例的减免, 因此, 在日中国留学生申请减免交纳国民健康保险金, 只能按照日本各级政府部门针对在日低收入外国人实施减免交纳国民健康保险金的具体办法和实际情况来对应, 切不可强加要求日本相关部门。

在此我们建议所有在日中国留学人员, 不论能否得到减免交纳日本国民健康保险金的待遇, 都要尽可能地加入日本国民健康保险, 以免在发生疾病的时候影响在日的学习和生活。

四、相关注意事项的相关问题的说明：

1. 本「在日中国留学生申请减免打工收入所得税及申请退还已经交纳的收入所得税」介绍，只适用于在日有留学签证的中国留学生。对于就学签证的留学人员不再此范围以内。

2. 各位中国留学生在日本学习、生活、打工，一定要遵守日本的法律以及对外国人的相关规定，进行合法的生活、学习和兼职活动。

3. 在日中国留学生申请退还或减免的打工收入所得税前提条件是什么？可以申请退还多长时间以前的打工收入所得税？

答：申请退还或减免打工收入所得税的对象是必须拥有日本合法留学签证的中国留学人员，在合法打工的前提下可以申请退还或减免打工收入所得税。被征收的个人所得税可以退还到从申请日起的前5年间交纳的个人所得税。

4. 在日中国留学生可以申请退税和减免税的税种有哪些？

答： 所得税，地税（例如，住民税）

5. 是不是只是目前在学的中国留学生可以申请退税？现在在职的在日中国人可不可以申请当年上学时交纳的税款？（比如只要是在《日本と中国の租税条約》签署后，并且当时是在在学时交纳的税款，虽然现在不是留学生了，是否也可以申请退还？）

答： （正在考证中）

6. 没有收入的中国留学生可否申请退回多付的国民健康保险金吗？如果可以，能够申请退还多长时间之前的？

答： 已经交纳的的日本国民健康保险金在除去最低保证缴纳额以外，可以退还到从申请之日起前3年间的数额。

但是，由于保险金不等于税金。我们在办理的过程中，也有遇到过有的市役所不承认由于国税和地税的变化对国民健康保险额的影响。

附件：1. 在日留学生打工许可相关规定：参见东京入国管理局网页

<http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/index.html>

2. 《日本と中国の租税条約》

http://www.nta.go.jp/category/yousiki/gensen/annai/1648_46.htm

《日本と中国の租税条約》

日本国税庁 税務手続の案内

[手続名] 租税条約に関する届出（教授等・留学生・事業等の修習者・交付金等の受領者の報酬・交付金等に対する所得税の免除）

概要

我が国に来日した大学教授や留学生等が、その所得等につき下記に掲げる租税の免除を受けようとする場合に行う手続です。

- ① 租税条約の相手国からの個人で学校教育法第1条に規定する学校（小学校、中学校、高校、大学、高等専門学校等）において教育又は研究を行う人（教授等）が、その教育又は研究を行うことにより支払を受ける報酬について、租税条約の規定に基づき源泉徴収税額の免除を受ける場合
- ② 租税条約の相手国からの個人で、学校教育法第1条に規定する学校の児童、生徒若しくは学生（留学生）として、事業、職業若しくは技術の修習者（事業等の修習者）として又は政府若しくは宗教、慈善、学術、文芸若しくは教育の団体からの主として勉学若しくは研究のための交付金、手当若しくは奨学金の受領者として、それぞれ国内に一時的に滞在する人が、その支払を受ける国外からの給付若しくは送金、交付金等又は国内に一時的に滞在して行った人的役務の対価としての俸給、給料、賃金その他の報酬について、租税条約の規定に基づき源泉所得税額の免除を受ける場合

（注） 上記の留学生、事業等の修習者又は交付金等の受領者には、租税条約の相手国からの個人で、日本国政府又はその機関との取決めにに基づき、もっぱら訓練、研究又は勉学のための国内に一時的に滞在する者が含まれます。

[手続根拠]

租税条約の実施に伴う所得税法、法人税法及び地方税法の特例等に関する法律の施行に関する省令第7条第1項、第2項、第8条第1項、第2項、第9条の5

[手続対象者]

上記 [概要] 欄の源泉徴収税額の免除を受けようとする者

[提出時期]

入国の日以後最初に報酬・交付金等の支払を受ける日の前日までに提出してください。この届出書の提出後その記載事項に異動が生じた場合も同様です。

[提出方法]

報酬・交付金等の支払者ごとに届出書を正副2部作成して、その支払者に提出し、その支

払者は、正本を、その支払者の所轄税務署に提出してください。

[手数料]

不要です。

[添付書類・部数]

- 1 適用を受ける租税条約が特典条項を有する租税条約である場合には、「特典条項に関する付表(様式17)」(同様式に規定する添付書類を含みます。)を添付してください。
 - 2 この届出書には、次の書類を添付します。
 - ① 留学生である場合 その者が在学する学校の発行する在学証明書
 - ② 事業等の修習者である場合 その者が訓練を受ける施設又は事業所の発行するその者が事業等の修習者であることを証明する書類
 - ③ 交付金等の受領者である場合 交付金等の支給者が発行する交付金等の受領者であることを証明する書類
- (注) この届出書に記載された事項その他租税条約の規定の適用の有無を判定するために必要な事項については、別に説明資料を求めることがあります。

[申請書様式・記載要領]

租税条約に関する届出(教授等・留学生・事業等の修習者・交付金等の受領者の報酬・交付金等に対する所得税の免除)

[提出先]

報酬・交付金等の支払者を経由してその支払者の所轄税務署に提出してください(税務署の所在地については、国税庁のホームページの「国税庁の紹介」の「所在地及び管轄」をご覧ください。)

[受付時間]

8:30 から 17:00 までです。

[相談窓口]

最寄りの税務相談室又は税務署(源泉所得税担当)